

令和6年度 古賀市立千鳥小学校 学校経営要綱

令和6年4月1日

1 本校の経営理念 ～教育公務員として果たすべき責任から～

公立の学校である古賀市立千鳥小学校教職員は、公教育に携わる公務員であることを認識し、憲法、教育基本法及び学習指導要領などの法令等が示すところに従い、子ども一人一人に持続可能な社会と豊かな人生の創り手としての資質・能力を育成する。

そのために我々は、古賀市教育委員会が示す教育施策を踏まえ、人権教育の推進を軸として、子どもの可能性を引き出し、子どもが将来の夢や目標の実現に向けて主体的に学び、課題を解決しながら、安心して学校生活を送ることができるように教育活動を実践する。

また、本校はコミュニティ・スクールであることから、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学校教育の意義を保護者及び地域住民と共有・連携しつつ、社会に開かれた教育課程の充実を図り、子どもが自律・自立した古賀市民となれるように育成する。

技術革新に伴う急激な生活様式の変化、国際情勢の不安定化等の様々な社会事象から実感できるように、未来はますます予測困難なものになることが予想される。そうであれば、子どもは、想定していない課題に直面しても、多様な考えをもつ他者と協働しながら主体的に課題を解決していかなければならない。学校は、子どもたちが課題を解決しながら豊かな未来を創り出す資質・能力を得る場である。我々は、この認識に立ち、その職責の重さを自覚して職務を遂行する。

以上のことを踏まえ、本校の経営理念を次のように定める。

未来の創り手である子どもの育成を通して、持続可能な社会創りに貢献する

千鳥小学校の教育目標 ～チーム千鳥小がめざすゴール～

未来に続く『千鳥』と豊かな人生を創り出す子どもの育成

令和5年6月に、文部科学省は第4期教育振興基本計画を示し、今後5年間の基本方針を示した。また、令和3年1月には、中教審から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。

今、学校教育は新たな方向に向け推進していく節目を迎えている。

そこでこの機に、学校の教育目標を新たに設定することとした。

2 本校の教育目標とめざす子ども像 ～育てる資質・能力の具体～

「未来に続く『千鳥』と豊かな人生を創り出す子ども」の資質・能力を、次の3つの子ども像により規定する。また、この資質・能力を教職員、子ども・保護者及び地域住民がイメージしやすいように「千鳥小で学ぶことは、自分の生き方をみがぐ力」として表す。

— 千鳥小で学ぶことは、自分の生き方をみがぐ力 —

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ○ 豊かな心と健やかな体を追い求める子ども | 【よりよく生きる子（徳・体）】 |
| ○ 未来を創るために学ぶ子ども | 【すすんで学ぶ子（知）】 |
| ○ 協働して『千鳥』に働きかける子ども | 【みんなでつくる子（創）】 |

(1) 豊かな心と健やかな体を追い求める資質・能力

「豊かな心と健やかな体を追い求める」とは、自分も他者もかけがえのない大切な存在であるという認識に立ち、道徳的価値に向き合い、健康な心身の維持・向上に努め、様々な場や状況においていかに生きるべきかを自己選択・自己決定し、実践していくことである。健全で自立した個人かつ地域社会の形成者として必要な資質・能力であるとともに、本校がめざす3つの子ども像の中心をなすものである。

(2) 未来を創るために学ぶ資質・能力

未来とは、持続可能な社会としてのふるさと千鳥、その先にある古賀市、日本・世界の姿であり、子ども自身の幸せで生きがいのある人生である。「未来を創るために学ぶ」とは、「自分はこうありたい、こうなりたい、こうしたい」等の目的・目標をもち、その実現に向け知識及び技能及び思考力・判断力・表現力を主体的に得ていくとともに、その学びをつかって課題を解決した自分のよさを実感することである。持続可能な社会と豊かな人生を創り出す中核となる、生涯にわたって学び続けるために必要な資質・能力である。

(3) 協働して『千鳥』に働きかける資質・能力

『千鳥』とは、千鳥小学校、校区ひいては子どものふるさとである古賀市である。「協働して『千鳥』に働きかける」とは、自分のみならず多様な他者や社会のために考え動く心のもと、よりよい『千鳥』の実現に向けて、課題を見出し、解決のための計画を立て、多様な立場の人と自他がもつ力を合わせて繰り返し関わりながら「もの、こと」を創り出すことである。未来に続く『千鳥』実現のために欠かせない資質・能力である。

3 めざす学校像 ～千鳥小学校のブランド～

本校がめざすのは、子ども、保護者及び地域住民にとって、魅力があり誇りに思える学校である。具体的には、次の3つで規定する。

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| ○ 「わかる・できる、かわれる、つくれる」自分を実現できる学校 | 【子どもにとって】 |
| ○ 安全・安心な学校 | 【子ども、保護者にとって】 |
| ○ 共に育てるためにかかわりたくなる学校 | 【保護者、地域住民にとって】 |

4 めざす教職員像 ～教育目標の達成を実現させる教職員の姿～

本校の教育目標を達成するのは、我々教職員一人一人であり教職員集団「チーム千鳥小」である。我々は、公教育に携わる教職員として確固たる教育理念と、決して不祥事を起こさない強い決意と倫理観とをもちつつ、自らが社会の創り手として子どものモデルとなれるように努める。

また、我々がチームとなるために、「目標に向かって励み合う」「互いを認めて尊重し合う」「悩みを共有してサポートする」「仲間のチャレンジを応援する」を行動指針とする。

以上を踏まえ、教職員像を設定する。

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| ○ 人権尊重の視点に立ち、公教育に求められる職業的能力を発揮する教職員 | 【よりよく導く教職員】 |
|-------------------------------------|-------------|

- 使命感をもち、謙虚に自分を見つめ、改善し続ける教職員 【自ら学ぶ教職員】
- 多様性を認め、相互に学び合いながら新たな価値を創り出す教職員 【みんなで創る教職員】

5 教育課題・経営課題 ～チーム千鳥小が解決すべき内容～

(1) 教育課題

【よりよく生きる子】

- 他者や集団、社会とのよりよいかかわりを、想像力を働かせて実践する態度の育成
- 自分の体の発達や体力の状況を認識し、体力や健康を維持、増進する態度の育成

【すすんで学ぶ子】

- 自分の課題を捉え、解決する方法を選択し、粘り強く取り組んで学びを獲得していく意欲と態度の育成

【みんなでつくる子】

- 他者が持つ多様な考えを認め、協働して目的を果たす実行力の育成

(2) 経営課題

【よりよく導く教職員】

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が図られた教育活動の改善

【自ら学ぶ教職員】

- ワーク・ライフバランスを取りながら、福岡県教員育成指標を基に教職員としてのキャリアステージを自ら見据え、指導力量を向上させていく人材の育成

【みんなで創る教職員】

- 教職員のみならず保護者、地域住民等とも連携しながら、めざす学校づくりを組織的に実現していく教職員集団の形成

6 本年度の重点目標 ～学校の教育目標達成に向けて本年度めざす子どもの姿～

学びの主体者としてのふるまいを身に付けた子どもの育成

昨年度は、「自分が学びの主人公だ」と自覚できることをめざして教育活動に取り組んだ。本年度は、自覚したことを実際の姿として表出できるところまでをねらいとする。つまり、「主人公としてこのやり方で学んでいく」という姿が出ている子どもを育てる。

具体的には、次の4つの姿をめざす。

- 目標を達成したり課題を解決したりするための方法を選ぶ。
- 自分で必要な調整をしながら学びを得る。
- 自分の強みを発揮しつつ、他者の考えや力を受け入れながら最後まで取り組む。
- 自分の学びや取組を振り返り、自他のよさを見つける。

そのために、子どもと我々教職員の双方が、各学年の発達段階に応じた「学びの主体者としてふるまう姿」を共有する。その上で、子どもが主体的に資質・能力を身に付けていくことができ

る教育活動を構想、実践していく。なおその際には、昨年度も含めて取り組んできた教育活動を批判的思考で見直す。見直す観点は、「本当に子どもが学びの主人公といえるのか」、「子どもの立場に立ってよさがあるのか」の2点とする。

7 経営の重点方策 ～教育課題・経営課題解決のために取り組むこと～

我々は、次の基本方針に則って重点方策に取り組む。

【チームで育てる千鳥小】

- ◎ 複数の教職員で一人の子どもを「みる」。
- 全教職員で、子どもにとっての最適解を考え続ける。
- 教職員としての専門性を発揮しつつ、多様な専門性をもつ関係職員・機関と連携する。

[方策1：共通方策]

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るICTを活用した教育活動の推進と教育環境の整備

[方策2：よりよく生きる子を育む方策]

(1) 他者や集団、社会とのよりよいかかわりの内容を重点とした人権教育、道徳教育

- ・地域のひと、もの、ことを扱う生活科、総合的な学習及び6年生社会科歴史学習を軸とした教科等横断的な学習による人権教育の展開
- ・他者の思いや状況等を想像する活動を重視した道徳教育の展開
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」の師弟実践

(2) 自ら健康で丈夫な自分づくりをプロデュースする教科等と健康的行事の実践

- ・「食」と「排泄」の観点から命を守ることを考える6年間を通じた系統的な学習の展開
- ・自分の体の様子や変化、運動能力の向上及び体力増進を実感できる「自分データ」のログ化とその活用

[方策3：すすんで学ぶ子を育む方策]

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られた授業改善

- ・子どもの自己選択・自己決定の場と交流の場の最適化を追究する授業実践
- ・交換授業、専科による学習指導及び課題別学習指導等、学級担任以外の教師による日常的な授業と評価の充実
- ・四部位層で分析した子どもの実態に応じた習熟度別学習による学力の向上
- ・全ての子どもが学びを止めないための支援体制の確立

(2) 子どもが「計画、実行、振り返り」を通して取り組み続ける自主的活動

- ・子どもが自己調整しながら実行する読書及び家庭学習の実施

[方策4：みんなでつくる子を育む方策]

(1) 学びや取組を発表したり多様な人と交流したりする場がある単元、行事等

- ・導入段階で目的と具体的なゴール像を子どもと教師が共有した後に活動を展開する活動構成による教育活動の推進
- ・地域貢献の視点で見直す学校の各種行事の評価、改善とカリキュラム・マネジメント

(2) 自分たちで学校環境を改善していく重点活動

- ・子どもが主体となって学校改善に取り組めることをねらいとする児童会等の活動の推進

[方策5：めざす学校像、教職員像実現の方策]

(1) 教育課題、経営課題の解決に向けた研修

- ・管理職との面談を通し、キャリアステージに応じて計画する各種研修の積極的な受講
- ・算数科を軸とした本年度の重点目標達成に向けた主題研究の推進
- ・働き方改革、不祥事防止等の公教育に関わる今日的課題に関する一般研修等の実施

(2) 安全、安心の学校を実現させる組織的な取組

- ・確実かつ効率的な子どもの登校、健康状況の把握と速やかな支援態勢確立のための ICT 活用の推進
- ・特別支援教育校内委員会を中心とした、個別の教育支援計画・指導計画による学習プログラムの充実、教育的ニーズの把握と共有及び他関係機関・専門性のある外部人材との連携
- ・生徒指導主任を中心として他関係機関・専門性のある外部人材との連携も含めて実施する、いじめ、不登校等の諸問題に対する未然防止、早期発見、早期対応とその見取り
- ・生徒指導部を中心としたいじめに特化したアンケート、生活アンケート、学校生活・環境多面調査等による実態把握と教育相談・支援の組織的推進
- ・保健主事を中心とした学校環境の安全性の維持・向上
- ・命にかかわる個別の配慮事項の共有と緊急事態に適切に対応する態勢の確立

(3) 学校、家庭、地域と共に育てる協働の教育活動

- ・各ゲストティーチャー、ボランティアの方の思い、願いが反映する教育活動の工夫
- ・情報発信、オンラインによる指導・支援の工夫
- ・学校で学び、家庭、地域で発揮して、学校で学び直す「学びのサイクル」の機会づくり
- ・千鳥小 PTCA 活動の再構築

(4) 教育活動の質を改善する評価システム

- ・3つの子ども像を観点とする各教育活動の目標設定と評価、改善のサイクル化
- ・各種アンケート等の分析と検証の共有の効率的、効果的なサイクル化